

ティナラクの光沢はどこから？

相田陽子

「これは何ですか？」 イベント会場で、ティナラク製品を前にして、こう質問され、何について聞いているのかわからなかったことがある。織物と一目でわかってもらえないのに、驚いた。また、光沢のある織物に、「ビニールコーティングしているのですか」と質問されたこともある。

2001年に出版された「ドリームウィーバース」というティナラクに関する本には、「織りあがって終りではない。ティナラクは光沢が必要なのだ。そのために、布を叩く。それから蜜蝋を塗り、貝でこする。できれば大きなタカラガイが望ましい。割った竹の先に貝を付け、反対側は天井に当て、竹の弾力を利用して、全身で押して、こする。」と、光沢に関して記述されている。

12年前初めてレイクセブ町を訪れ、この貝でこするのを見たのが、とても印象に残っている。竹のしなりを利用しているのに感心した。イベント会場で、織を実演するのは無理だか、この貝で光沢を出すのを実演できれば、人を引き付けられるのではないかと、そのための情報を得るのが、昨年11月のCOWHED訪問の私の主な目的の一つだった。

COWHEDの伝統の家には、こする時に使う板がないので、織と貝を持って、歩いて3分ほどの近くの家に行った。ティボリの家は竹の床なので、床にティナラクを置いて貝でこすっても、効果はないと思っていたが、やはり専用の板を使うのだ。この板を見た時懐かしさを感じた。母が和裁をする時使っていたへら台と、長さは違うがほとんど同じだったからだ。

貝に挿した反対側の竹の先端を適当に梁に当てればよいと思っていたら、そうではなかった。梁に太い竹が横につけてあり、その竹の一部がきれいに楕円形にくりぬいてあり、貝に挿した反対側の先端を入れるようになっていた。それに、梁につけた竹と、その中に挿した先端が外れないよう、紐で結ぶようになっていた。

「ドリームウィーバース」の記述にあるように、そして以前聞いた話でも、蜜蝋を塗ってこすると教えられたが、実演してくれたアーニングは上手なので、何もつけないそうだ。私もやらせてもらった。かなりの力がい

るが、竹のしなりで、スムーズに動く。これを何時間もやるという。

ティナラクに光沢をもたらすため、無心で手を動かす。アーニングは結婚して、妻が織ったティナラクの仕上げをするようになった。母も織り手で父が仕上げをしていたので、やり方は知っていた。一般的に妻の織の仕上げは夫がするようだが、COWHEDに持ち込まれた織の仕上げが十分でないと、アーニングに光沢を出してくれるよう頼むという。

情報を得た結果、イベント会場で実演するのは困難という結論を出さざるを得ないのは残念であった。

‘Dreamweavers’ The Bookmark, Inc.出版 訳:筆者



貝に挿した竹と台にする板



梁につけた竹の穴に挿した竹

能力の結集

日曜日、COWHEDの伝統の家にはひっきりなしに観光客が訪れていた。アイダとマリアは接客をして質問に答え、マイダはすばやく計算をする。客の流れが一段落したのでHANDSの購入品の計算をしてもらおう。マリアの梱包の手際の良さに感嘆。約十種類140点もの品を見る見るうちに一つのバッグに入れてしまった。皆が各々の能力を十分に発揮し、それが一つとなり、COWHEDの発展に繋がったのが今回の訪問ではっきり見て取れた。

マネージャーのジェマは毎晩事務所の床に寝る生活だ。皆家庭と仕事の両立に悩みはあるが、COWHEDをここまでにしたという自負もある。そして更なる発展へと夢は終わらない。(相田)